もくじ

1 エッセイ　世界へ◉世界から
産科フィスチュラ問題に関わって
中山 道子

2 特集
古代アンデス 黄金の墓を掘る
古代アンデス 黄金墓の発見――ペルー北高地
パコパンパ遺跡プロジェクトより…… 関 雄二
パコパンパ遺跡の景観構造と昴…… 坂井 正人
形成期神殿と動物…… 鵜澤 和宏
パコパンパ村の食事――今・昔…… 瀧上 舞
遺跡調査と現地社会…… 荒田 恵

8 モノ・グラフ
ペットボトル以前の事
小島 摩文

10 地球ミュージアム紀行
沖縄県国頭郡「恩納村博物館」
本土復帰後の観光開発を生かした地域文化の継承と発信
久保 正敏

11 表紙モノ語り
戦士の頭を象(かたど)った壺
関 雄二

12 みんぱくインフォメーション

14 みんぱくを離れるにあたって
フィールドノートを読む
――みんぱくでの三三年
松山 利夫

16 多文化をささえる人びと
対話から理解へ
～大学生たちとの横浜中華学院訪問記～
陳 天璽

18 生きもの博物誌
ブラジルの国民的な飲み物
〈ガラナ〉
中牧 弘允

20 歳時世相篇
大甲媽祖遶境進香
夏の到来をつげる台湾の媽祖巡行
野林 厚志

22 フィールドで考える
海の恵みは皆で分ける
小野 林太郎

24 みんぱくウィークエンド・サロン
研究者と話そう
次号予告・編集後記

エッセイ　世界へ◉世界から

産科フィスチュラ問題に関わって

中山 道子（なかやま みちこ）

産科フィスチュラという障がいがある。難産や、母親が低年齢で産道が未発育の場合、胎児に圧迫されて膣、膀胱、直腸に穴の開くもので、死産を伴うことも多いし、患者は慢性的な大小便の失禁状態になり、その臭気ゆえに離縁されたり社会から疎外されてしまう。手術で九割は直るが、女性が低年齢で結婚する社会ではよく起き、手術費が工面できない貧困層に悲惨な例が多い。

エチオピアのアディスアベバでは、ノーベル平和賞候補にもなった豪人医師のキャサリン・ハムリン医師と亡夫レジナルド医師が一九五九年からこの問題に携わるようになった。最初は手術法も確立せず試行錯誤が続いたが、一九七四年に悲願だった専門病院を開き、無料で手術や治療を行い、回復後の自立のための教育や訓練も行ってきた。すでに三万人以上を治療したが、毎年多くの患者が生じて追いつかない。現地医師も少ないので、助産師大学も設立するなど、医療従事者育成も進めている。昨年はキャサリン医師たちの活動五〇年を記念する国際式典も開かれた。

私は、米国滞在中にハムリン医師のインタビュー番組を見てこの障がいを初めて知った。その後、自身、胎盤剥離で大量出血の末に超未熟児出産の経験をした。先端医療を受けられた私に比べ、貧困ゆえに苦しむ多くの女性患者のいる不平等への思いから、専門病院に寄付をした。すると支援団体の立ち上げを依頼されたので、二〇〇五年に日本初のフィスチュラ患者支援団体を立ち上げたのである。以来、皆がボランティアでエチオピアの専門病院へ資金や物資を送る活動を行ってきた。現在、ハムリン医師率いるハムリンフィスチュラグループは、エチオピアのアディスアベバを本部として、世界中に支援の輪を広げており、私たちの団体も、その一員として、「ハムリンフィスチュラジャパン」と名乗っている。

二〇〇三年に国連人口基金（UNFPA）がフィスチュラ撲滅キャンペーンを始めて以来、この障がいは世界的に知られるようになり、特に英語圏では支援活動が広がっている。ところが日本では、障がい自体がまれなので医学界でさえよく知られていない。そこで私たちは、障がいの存在を広報したり、治療費の募金活動を進めている。年配女性を中心に徐々に知られるようになってきたが、アフリカ研究やジェンダー研究分野の方々にも知っていただき、支援の輪を広げたいと願っている。

東京大学法学部卒、ハーバード大学公衆衛生学修士。海外不動産投資コンサルタント業のかたわら、ハムリンフィスチュラジャパン代表を務める。以来、対日アフリカ外交団体例会などで産科フィスチュラ問題の広報を進めている。
ハムリンフィスチュラジャパンのHP　http://www.fistula-japan.org